

あかしん

プランニング・デザイン・総合印刷・オンデマンドデジタル印刷・可変データ印刷
大判ポスター出力・データベース・PDF高速データ変換・CD-ROM制作・
3D・CGアニメーション企画・制作



半田中央印刷株式会社

〒475-0032 半田市潮干町1番地の21
TEL <0569> 29-2525 (代) FAX <0569> 29-4500
E-mail: main@handa-cp.co.jp http://www.handa-cp.co.jp

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ http://www.akai-shinbunten.net <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861 企画・制作：株式会社新聞ビル

元氣のでてくる「ことばたち」

156

村上信夫

(アナウンサー)



Nobuo Murakami

憶力の鍛錬にもなるからだ。話しかける自分のところに、死んだ人々が、時間を飛び越えてやってくる。死んだ人と一緒にいるような気持ちになれる。名前を言っ

させてしまふ戦争というものの「悪」を、身をもつて感じた。一方で、「俺は何で助かったのか」との気持ちも残った。1年3カ月の抑留生活の後、引き揚げ船で帰国する時に、心は決まっていた。これまで人のために何もして来なかった。せめて「非業の死者たち」に報いるために生きたい。『水脈(みお)

■村上信夫プロフィール
NHK エグゼクティブアナウンサー
1953年、京都生まれ。明治学院大学卒業後、1977年、NHK入局。富山、山口、名古屋、東京、大阪に勤務。現在は、『ラジオビタミン』担当。(ラジオ第一 8:30~11:50) これまで、『おはよう日本』『ニュース7』『育児カレンダー』などを担当。教育や育児に関する問題に関心を持ち続け、横浜市で父親たちの社会活動グループ『おやじの腕まくり』を結成。趣味は、将棋。著書に『元氣のでてくることばたち!』(近代文芸社) 『おやじの腕まくり』(JULA出版局) 『いのちの対話(共著)』(集英社) 『いのちとユーモア(共著)』(集英社)

大地とつながるために生きる

『生き物感覚』という言葉をよく使う。生の人間の「いのち」を徹底的に大切にする発想だ。秩父山地の産土で育った。「兵隊さんごっこ」に明け暮れ、林の中を走り回って、よく漆にかけて(かぶれて)いた。小用で手が触れるので「男根」が腫れあがってラップのようになる。顔も腫れあがる。そんな時、叔母が「漆と結婚すれば治る」と言った。冷酒を漆の木にかけて、「おめえも飲め!」と舐めさせられた。叔母は「これで、おめえは漆の木と結婚した、夫婦になったんだ!」もうかせる事はないと云った。本当に全く「かせる」ことはなくなった。自分自身に「樹木信仰」が育っていったキツカケだと思ふ。自分の中の「あらゆる生き物への信仰に近い親しみ」は、子ども時代に養われている。人間と動物の区別などない「生き物に対する本能的な姿勢」がある。

抱き合えば、物に即せる

俳人 金子兜太さん

俳人の金子兜太さんは、先月、92歳になつたばかりだ。全国に弟子が1000人。新聞の俳句投稿欄に毎週6000句投稿される句に全て目を通し選句している。週に3回は、東京や地方へ出かけ、講演や講座、句会にと大忙しという俳句界の巨人だ。巨人は、92歳の心境を「今生きて 老い思はずと 去年今年(こぞことし)」と詠む。

何のために生きるのか

それにしても「兜太」。太い兜とは、すごい名前だ。あこの骨ががっしり張り、まさに兜に相応しい顔立ち。野太い声の迫力がすごい。でもお茶目なのだ。俳句教室のご婦人方に人気なのがうなづける。

元氣の秘訣は、ありのままに、本音で生きていることだ。毎朝、1日100回のスクワット。腹周りの乾布摩擦。肩回し20回、首回しもする。ご本人曰く「立禅」という儀式もある。立ったまま、30分ほど瞑想する。5年前に亡くなった愛妻をはじめ、130人くらいの亡くなった人々の名前を思い浮かべながら語りかけるのだ。名前を思い出す順番を決めている。記

ていると、その人が生きているように思える。心を正し、初心に帰る。この「立禅」の出来いかんで、その日一日が左右される。後悔ばかりの人生だが、その人の面影で正されるような気がする。ひとときの思いで語りかけるのが戦友たちだ。太平洋戦争で徴兵された金子さんは、南方戦線トラック島で海軍主計中尉として「敗戦」を迎えた。東京帝大を出て、日本銀行に就職したが、わずか3日勤めただけで、1944(昭和19)年、トラック島に施設部隊として赴いた。しかし補給路を失い食糧を断られた。餓死していく者や銃弾に当たり戦死する者も目の当たりにした。

この「悲惨」な体験が、戦後の生き方の原点、自分の出発点だと思つていく。多くの仲間たちの「非業の死」を見た。同時に、「死」を力づくで実現

の果 炎天の墓標を 置きて去る』は、人生の転機となった句だ。人は死ぬなら、自然に死ななくてはならない。今回の地震でも、尊厳を奪われ、理不尽な死があった。地球のなせる業と諦めていいのか。地震や津波で人が亡くならない方法を考えねばならないと思う。



俳画/イネ・セイミ

僕のも、俳句が趣味だった。毎年、正月元日になると「元日や 餅で押し出す 去年糞」と言っていたのが、子ども心に忘れられない。そうしたら、それは金子さんのお父さんの句であることが、今回判明した。田舎の開業医だった親父は、とにかく「放屁」が好きで、のべつまくなしだった。特に父に勧められたのは「野糞」。金子さんの父は、人里離れた山の上まで、よく往診をしていた。村人は御礼に、芋やトウモロコシを焼いてくれた。散々喰って帰途につく途中では、決まって「野糞」。「月を眺めながらやるのが、なんともいえねえ」これくらい悠々としてなけりや、男はだ

めだ」と偉そうに説教していたという。これも大地とつながる生き物感覚だ。

「俳句は、相手と抱き合えば、いい句になる」と言う。物に即するには、離れていてはダメだ。即物とは、相手と抱き合うことだ。生き物感覚は、即物によって得られる。生き物感覚があるから、物に即することが出来る。自分の利益になるよう、相手を改造してしまおうという「対物姿勢」では、生き物感覚は感じられない。

古来もついていた自然への畏敬を忘れ、欧米的な対物思想に支配されてはいけない。人間も地球も生き物。この世界は、様々な生き物が寄り集まって出来ている。地球も生き物ということを知ると、今回のようなことになってしまおうと、巨人は五七五を通して、警鐘を鳴らす。インタビュを終えて、巨人にハグを求めた。

巨人は、おおらかに応じてくれた。なぜか、涙が出た。「安心」に包まれていような気がした。

ラジオが好き!
村上信夫
好評発売中



イネ・セイミプロフィール

フルート奏者として活躍中。俳画家。絵画を幼少より日展画家の(故)川村行雄氏に師事。俳画を華道彩生会家元(故)村松一平氏に師事。俳画の描法をもとに、少女、猫等を独自のやさしいタッチで描いている。個展多数。

俳画教室開講中

ところ 常滑屋
とき 月一回 第二・第四金曜日
午後一時~三時
会費 一回 二二五〇円(三ヶ月分前納制)
問合せ ☎〇五六九(三五)〇四七〇

大人でも上達する!
フルート教室
入会受付中!!
何か始めたいと思つている貴女。数年後、素敵にフルートを奏でる姿がそこにあります。楽しく個人レッスン致します。

講師 イネ・セイミ
(フルート奏者 指導歴30年)
1レッスン・時間5,000円(テキスト代付)
申込み 0569-89-7127
お問合せ scimline@oasis.ocn.ne.jp

慈愛の人・良寛 (76) 杉本武之

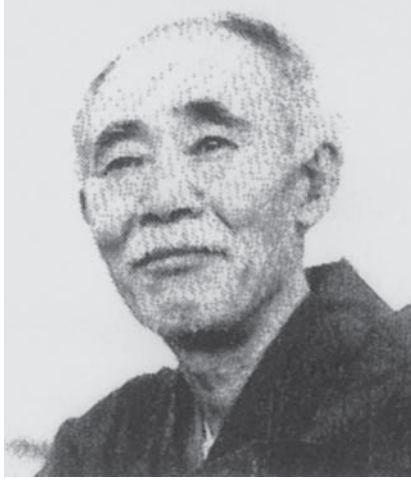
良寛研究者たち(その2)

◎「全集」を編集した人々
前回の西郡久吾、玉木礼吉に続いて、良寛の全集を編集し発行した人々を紹介...

◎相馬御風
(1883～1950)
3番目に古い良寛全集である「大愚良寛」を刊行した相馬御風は、文学史上かなり有名な詩人・評論家です...

◎大島花束
(1883～1963)
4番目に古い良寛全集を刊行したのは、相馬御風と...

らと「早稲田詩社」を興し、『御風詩集』などで注目され、口語自由詩運動に一石を投じた。29歳で母校の早大の講師になる。
大正5年、34歳のとき『選元録』を出版すると、東京におけるすべての地位や名声を捨てて一家をあげて郷里の糸魚川に帰った。帰郷後は、短歌の普及に努めるとともに、2年前に発行された西郡久吾の『北越偉人沙門良寛』の影響を受け良寛の研究に没頭した。大正7年に『大愚良寛』と『良寛和尚詩歌集』を刊行。以後、良寛に関する研究書は21冊にのぼり、彼の著書によって良寛の偉大さが広く世に知られるようになった。



相馬御風

同じ年に生まれた大島花束は、幼時に失明した。母の失明を乗り越え、進学した花束は、次々と上級学校の検定試験を受けて合格した。45歳で大阪府立茨木中学校教諭になる。その後、日本大学大阪中学校教諭、淀川女子高等学校教諭に打ち込む。向上心に燃えていた花束は、次々と上級学校の検定試験を受けて合格した。45歳で大阪府立茨木中学校教諭になる。その後、日本大学大阪中学校教諭、淀川女子高等学校教諭...

だ生存していた頃で、幼時から良寛の話をよく聞かされた。24歳で新潟師範学校を卒業。小学校の教師になる。やがて、良寛の生まれた出雲崎町の小学校に赴任。このことが契機になり良寛研究を勤め、昭和38年1月6日、大阪府茨木市において病没。良寛と同じ命日である。80歳。
昭和4年に『良寛全集』(岩波書店)を刊行した。4年後に『校註良寛歌集』と...

究に打ち込む。向上心に燃えていた花束は、次々と上級学校の検定試験を受けて合格した。45歳で大阪府立茨木中学校教諭になる。その後、日本大学大阪中学校教諭、淀川女子高等学校教諭...

『訳注良寛詩集』を刊行。原田勘平との共著である『訳注良寛詩集』(岩波文庫)は、戦前戦後を通じて長期ベストセラーとなった。昭和33年に、それまでの研究を集大成した『良寛全集』を新元社から刊行した。「大島本」の愛称で、多くの人々に愛読されてきた。平成になって別の出版社恒文社から復刻版が発刊された。

良寛全集を刊行した人の中で、小学校の教師を勤めたのは大島花束だけだ。良寛は子どもたちを愛した。また子どもたちに愛された偉大な教育者でもあった。大島花束は、良寛の愛の精神を胸に秘め、慈しみの心で子どもたちに接していたと思われたい。彼の『良寛全集』の「はしがき」を引用します。
「これまで世にどのような大きな功德をもたらしたと...

彼ら良寛が数多く書き残した「戒語」の重要性を強調しています。
「通俗平易の言葉で書かれてあることが一面読者の注意を引かないかとも思われるが、「戒語」こそ、キリストの「山上の垂訓」であり、釈迦の「法句経」であって、最も注意しなければならない良寛さまの精髓である。その中に含まれている珠玉は実に尊ぶべき何物にも代えがたき宝である」

◎東郷豊治 (1905～1969)
昭和34年に『良寛全集』(上下)を刊行した東郷豊治は、大阪外国語大学教授で、心理学の専門家でした。異色の良寛研究者と云ってもいいでしょう。
彼は明治38年(1905)に福井県敦賀市に生まれました。京都大学文学部で心理学を専攻した。昭和15年、35歳のときから新潟県高田師範学校現新潟大学の教授になり、良寛の故郷・新潟で10年間働いた。その後、福井大学、大阪外国語大学と移ったが、在職中に急逝した。64歳。
東郷豊治は、高田師範学...

◎内山知也 (1926～)
谷川敏朗 (1929～2009)
松本市書 (1936～2009)
今から5年前に、3人の編者によって『校本 良寛全集』(3巻)が中央公論新社から刊行されました。第1巻は詩、第2巻は和歌、第3巻は書簡を中心に編集されています。
なお、息子の東郷寛によれば、東郷豊治は死後、東大寺の海雲和尚から「純真如童今良寛居士」という戒名を与えられたということです。

内山知也は、1926年、新潟県柏崎市に生まれた。東京文理大学漢文学科卒業。柏崎高校や新潟高校教師を経て、筑波大学教授になった。主著『良寛・草堂集貫華』
谷川敏朗は、1929年、新潟県白根市に生まれた。東北大学文学部卒業。宮城県・新潟県の高専で教諭を歴任。2年前に80歳で死去。主著『良寛の書簡集』
松本市書は、1936年、鳥取県に生まれた。日本大学文学部卒業。出版社に勤務し、良寛関係の書籍の編集に携わった。2年前に73歳で死去。主著『良寛の生涯・その心』

知多の新鮮たまご 発酵ケイフィン (有)知多エッグ
知多郡武豊二ツ峯380 TEL0569-73-6341

◎常滑市民文化会館
開場時間：午後2時30分～5時15分(受付) 午後5時30分～8時15分(入場)
開演時間：午後7時30分～9時15分(入場)
◎文化振興事業 邦楽ついで九日(日)
開場：午前11時15分 開演：午後7時30分
◎文化振興事業 邦楽ついで九日(日)
開場：午前11時15分 開演：午後7時30分
◎文化振興事業 邦楽ついで九日(日)
開場：午前11時15分 開演：午後7時30分

◎常滑市民文化会館
開場時間：午後2時30分～5時15分(受付) 午後5時30分～8時15分(入場)
開演時間：午後7時30分～9時15分(入場)
◎文化振興事業 邦楽ついで九日(日)
開場：午前11時15分 開演：午後7時30分
◎文化振興事業 邦楽ついで九日(日)
開場：午前11時15分 開演：午後7時30分
◎文化振興事業 邦楽ついで九日(日)
開場：午前11時15分 開演：午後7時30分

(有)大阪屋葬祭
常滑ホール / 鬼崎ホール / 阿久比ホール
TEL<0569>35-4949(代表) FAX 35-4911

この指とまれ (187) 氏原朝信

イネにほがなつた
五年二組の教室で育てたイネにほがなりました。



ホテイアオイ
メダカが入っている水そうの中のホテイアオイが大きくになって、最近、うすむらさきのかわいい花が咲きました。(9・20付「新新聞」)

継続し観察できる子どもたちでしたが、残念ながらいろいろな問題が学級でおきてきたのです。

(9/26付「スクラム」) 私原朝信

私の教育実習校は、障害児教育や同和教育といった人権教育を熱心に研究実践されていた京都府城陽町立寺田小学校でした。その影響もあって子どもたちの日常生活に対して敏感であつたように思います。

小遣い調べ(9/25調べ)
お金の貸し借りが発端で友達を使つての取り立てという事件がおき、金銭問題と友達関係について話し合いました。

Table with names and counts: 小遣いのもらひ方 (39名), もらつてない (1名), もらう方法と額(平均) (22名), etc.

半もの学級生活をしてきた仲間であるのに、なぜ仲間く助け合つて楽しい学級生活・班活動ができないのかと思ひます。間違つたことを答へたら、嘲り笑つたり(略)仲間外れにしたり、うか。(略)先生は、嫌いだ。と言われるより、仲良くできないことの方が悲しいです。仲間の悩みや悲しみを話し合つたりする機会をもたなかつたことは、先生の仕事です。

555 (555)

◎常滑市民文化会館
開場時間：午後2時30分～5時15分(受付) 午後5時30分～8時15分(入場)
開演時間：午後7時30分～9時15分(入場)
◎文化振興事業 邦楽ついで九日(日)
開場：午前11時15分 開演：午後7時30分
◎文化振興事業 邦楽ついで九日(日)
開場：午前11時15分 開演：午後7時30分
◎文化振興事業 邦楽ついで九日(日)
開場：午前11時15分 開演：午後7時30分

◎常滑市民文化会館
開場時間：午後2時30分～5時15分(受付) 午後5時30分～8時15分(入場)
開演時間：午後7時30分～9時15分(入場)
◎文化振興事業 邦楽ついで九日(日)
開場：午前11時15分 開演：午後7時30分
◎文化振興事業 邦楽ついで九日(日)
開場：午前11時15分 開演：午後7時30分
◎文化振興事業 邦楽ついで九日(日)
開場：午前11時15分 開演：午後7時30分

◎常滑市民文化会館
開場時間：午後2時30分～5時15分(受付) 午後5時30分～8時15分(入場)
開演時間：午後7時30分～9時15分(入場)
◎文化振興事業 邦楽ついで九日(日)
開場：午前11時15分 開演：午後7時30分
◎文化振興事業 邦楽ついで九日(日)
開場：午前11時15分 開演：午後7時30分
◎文化振興事業 邦楽ついで九日(日)
開場：午前11時15分 開演：午後7時30分

料理研究家 長澤晶子のSPEED★COOKING!
もち米を使わない 栗ごはん(炊き込み用)
行楽シーズンですね。お弁当の中にも秋の味覚をつめて出掛けてみましょう!!
材料(4人分)
作り方
1 土鍋にA①②を入れフタをし火にかける。基本、最初10分強火。沸とうしたらフタをあけ、☆を入れフタをし、弱火にして12分炊く。

常滑市民文化会館 555
◎常滑市民文化会館
開場時間：午後2時30分～5時15分(受付) 午後5時30分～8時15分(入場)
開演時間：午後7時30分～9時15分(入場)
◎文化振興事業 邦楽ついで九日(日)
開場：午前11時15分 開演：午後7時30分
◎文化振興事業 邦楽ついで九日(日)
開場：午前11時15分 開演：午後7時30分
◎文化振興事業 邦楽ついで九日(日)
開場：午前11時15分 開演：午後7時30分

新シリーズ ヒューマンライフ

『新・現代家庭考』就職

—自分ドラマつくろう— (7) 岡田 清治

日本のゆくえ

真三は前島の話に興味深げに聞き続けた。「それは難しいですが、私もリストアップされてから日本の半導体がどうしてダメになったのか、かつてのモノづくりの力はどこへ行ってしまったのか、いろいろ関係の本を読みました。いろんな方がそれぞれの見方で書かれています。私は先ほど言いましたように品質へのこだわりが、競争力を失くしたと思っています」

「それは悲劇と言いますか、経営者の見識の問題ですね」「皮肉なことですが、日本の技術者は生真面目なところがあって、一途に取り組み癖があります。とにかくギリギリまで高品質を追求します。それらを求めるユーザーは一部なのに供給するメーカーは他社に負けないように同じことをして過当競争を繰り返して、自滅していったのです」

「ところが、中国や韓国はそういう戦略を取らないのですね」「そうです。中国のメーカーは品質をランク分けして、高い品質を必要としないユーザーにはそれなりの製品を納入するのです。日本のメーカーはすべてトップクラスの製品にこだわるのです」

「日本の技術者や経営戦略にMOT(マネージメント・オブ・テクノロジー)の考えが欠落しているということでしょうね」

「そう思います。なぜ、日本は韓国、台湾、中国に敗れたのかという問いに、ある程度、納得させてくれた本に出会いました」「興味深いですね」

前島は元本田技研工業の常務田上勝俊氏の著書『新しいものを次々と生み出す秘訣』を紹介した。

「田上勝俊氏によれば、次のようなことになる。一九七三年(昭和四八)のオイルショックでエネルギー危機がやってくる。それまでアメリカは自動車、冷蔵庫をはじめ電化製品の多くが、大型のものが主流であった。ところが日本がやっていた省エネ、省資源、小型化、高性能化が一挙に世界のニーズと結びついた。」

そして八〇年代はその成果が出て、ジャパン・アズ・ナンバーワンと言われ、モノづくりでトップに躍り出た。

この勝ちパターンは、「よいものを「安く」「大量」に生産したことで成功のビジネスモデルとなった。ところが、バブルが崩壊後、すっかり変わってしまった。市場の要求するレベルを超える製品がどんどん出てきた。つまり過剰品質、過剰性能の製品づくりが進んでいった。」

「前島さんの思いと同じですね」「お二人とも同じ嫉妬でいいですよ」

ママは二人の話聞きながら、空いたグラスを見つめずめた。「ああ、お願いします」「ボクも。」

前島も同調しながら話を続けた。

「やがて韓国、台湾は日本のあとを追ったが、はじめは品質が悪いので安いのだろうというところで、誰も買わない。ところがそのうちに、追いついてそこそこの製品をつくれるようになった。品質は要求レベルに合わせて、安いものをつくれれば、市場はどんどん受け入れたのである。」

追い打ちをかけたのが、八五年のプラザ合意による変動為替相場で八〇円を割ることになって、安いものがつくれなくなってしまう。

そしてバブル崩壊前までは足りないという時代だったが、崩壊後はだいたいのモノが充足してしまっただけで、日本の企業は一生懸命、コストダウンに取り組んだが、所詮は焼け石に水だった。

日本は技術立国しか生きる道はない。資源節約型システムは不変であるが、キャッチアップ型手法は通用しない。横並び意識の終焉である。これからは自ら革新技術を起こすという意識改革が必要だ。

大量生産、大量消費システムが限界にきている。二十一世紀は「作るから」「造る」を経て「創る」時代である。

「だいたい、こういう内容だったと思います」

「そうですか。そう言えば私も同じようなことを湯之上隆氏



ダナン・ティエンサ港で観光客を待つベトナム女性(著者撮影)

の著書『日本「半導体」敗戦イノベーションのジレンマ』で知りました」「聞いたことがあります」「彼は日立製作所の半導体技術者だったのですが、会社から『四〇歳、課長職以上は、全員責任を取ってもらいたい』と早期退職勧告がなされた。ちょうど四〇歳で主任研究員であった湯之上隆氏も都合三回の早期退職勧告を受けて退社したそうです」

「本当にどの企業も厳しかったんですね」

「湯之上隆氏の話をお読みいただけます」と

「世界の八〇%のシェアを占めていたDRAM(磁気ドラムメモリ)から日本の半導体メーカーがエルピーダメモリ一社だけを残して撤退してしまったのを社会科学的研究、論文発表した。」

結論的には「日本の半導体産業は過剰技術、過剰品質の病気がかかっているのに、業界自体が病気を患っているとは思っていないことだ」と指摘している。

「これは前島さんと元本田技研工業の田上勝俊氏の見方と一致しています」

「印象に残ったのは「日本の半導体の最大の問題は、ゴーン(日産自動車)がいないことだ」という。ゴーンが来てやったことは、原価管理部をつくったことだと、喝破している。それほど日本の半導体企業の経営者も技術者も原価意識が欠落していることだとしている。つまり日本の設計技術者は品質至上主義で原価意識が希薄である。」

「全く同感ですね」

「世界の半導体ではいつも売上ランキングで米国(インテル)、韓国(サムスン)が上位を占めているが、生産能力で見ると、売上ランキングでは一社も入っていない台湾がトップ一〇に四社も入っている。世界の半導体をリードしている国は台湾だということ。」

そして世界市場に普及しているのは低価格製品だと指摘している。日本の半導体メーカーにマーケティング部を設けているところはなく、日立では担当者が数人しかいないのに対して、サムスは二〇〇〜三〇〇人いて、たえず現地に赴いているという。

「日本はこれからどうしたら世界でリード役を果たせるのかということでしょうね」

「キャッチアップ型ではダメというは本当ですね」

「日本は役所でも企業でも実績主義でしょう」「そこなんです」

「新しい取り組みをしようと、クライアントに持ち掛けても「実績はどうなんだ」と言われる」

「後追いといいますが、モノまね意識が抜けていないのです」

「日本人は創造力に欠けているのではないですか」

「そうでもないと思っただけのことがあるのです」

「ええ、どのようなことですか」

前島はつい先頃、講演会で聞いた話を始めた。「新聞報道で大きく取り上げられたので、ご存知だと思いますが、微惑星イトカワに小惑星探査機はやぶさを打ち上げ、イトカワから微量のサンプル粒子を持ち帰った話です」

「よく覚えてますね」

「その小惑星探査機のプロジェクトマネージャーである川口淳一郎氏の講演を聞く機会があったのです。彼の話を聞いて日本人の創造力も大したものだと思います」

「イノベーションの発展にはハイリスクの投資は避けられないのです」

今回のことで次代に伝えたい教訓として

①技術より根性

②運を実力に変える活動

③アイデアで変革

高い塔を建てなければ、新たな水平線は見えてこないということですね」と話された。

「創造力は今あるステージの延長線上ではなく、一段高いところへジャンプしないと生まれないということですね」

「そうです。日本のビジネスモデルを世界標準にしない、これからのグローバル時代は生き残れないのではないですか」

「それにしても日本製品にこだわりやすくなるのが多くなりませんか」

「どうしてなの」

「とにかく、電化製品、携帯、パソコン、そしてクルマにしても過剰機能とモデルチェンジで価格を上げています。この戦略は日本で通用しても海外ではダメで、そのうち国内でもやられる予感がするのです」

「そう言えば、パソコンやデジカメでも大半の機能を使っていないわ」

「そうだろう。ママにしたら写るんです」というコマシーヤルではないが、単機能でいいわけです。ところがそうした製品が少ない上に、デザインにも力を入れていないので、つい高級機種を買ってしまうのではないですか」

「そうなの。とくにコンパクトカメラは写ればいいのに、使いたくない機能が多過ぎるのよ」

「先日、用事で東京・銀座の松屋の日常生活品売り場に行ったのです。百貨店から電化製品が消えて久しいですが、日常生活品売り場には一部、電化製品も置かれていました。デザインがすばらしいミキサーを見てみると、「中国製」とあった。高級日用雑貨品の中にも今や中国製が進出しているのです」

「日本のメーカーは発展途上国の富裕層を狙って海外展開をしているといいますが、日本の富裕層まで狙っているのは中国や韓国です」

「松屋は特別なところですか。建物の屋上に中国家電メーカーの看板がありますので、わかると思いますが……」

「あの百貨店の屋上には中国家電メーカーの広告塔が設置されているところを見ると、もはや百貨店そのものが中国化しているのではないですか」

「真三さんは姪御さんの就職のこといろいろ考えておられるということでしたね」

「ママが真三に確かめるように話を交えた。」

「そうです。私だけでなく、ちょうど年頃のお子さんを抱えている方は、同じような心配をしておられます」

「実は私も二人息子がおりまして、この先、どうするか心配しています」

「前島さんは会社を経営されているから、後継ぎとして育てられたらいいのではないですか」

「そう簡単にはいかないのです」

三人はそれぞれの思いを吐き出すように時間の経つのも忘れて話を続けた。

(続く)



プロフィール

著者：岡田清治(おかだせいじ)

一九四二年生まれ ジャーナリスト

(編集プロダクション・NET

108代表) 著書に『夢軌跡と

野望―百年とこれから』

『あなたは社員の全能力を

引き出せますか!』

『リヨンで見た虹』など多数

※この物語に対する読者の方々のコメント、体験談を左記のFAXかメールでお寄せください。今回は「日本のゆくえ」についてです。物語が進行する中で織り込むことを試み、一緒に考えます。

FAX: 0569-34-7971

メール: takamitsu@akai-shinbun.net

ほりお教授の紀行文学シリーズ ロマンチック沖縄旅物語(連載 第六回)

イリオモテヤマネコ会見録

堀尾 幸平

その朝、沖縄・那覇港は、大、小さきさまざまな船が往来し、港全体が生きもののように活気づいていた。

ぼくは沖縄本島で二週間ほどに三、四本の原稿の執筆を終えて、これからは全くのプライベートで、二三日の沖縄離島めぐりの旅を楽しもうと思っていた。

ぼくは、早朝からかなり長い時間、どの船に乗ろうか、迷った。切符はまだ買ってはいないので、どの船に乗るか、というよりどこに行きに乗るかを決めかねていた。

そんなぼくの横で、先ほどからひとりの少年がぼくと同じように船の行き来をながめていた。

「おじさん…」
少年は、たまたまぼくと目が合うと人なつこくぼくに近寄ってきた。
「おじさん、ヤマネコに会ったことあります?」

「あの、イリオモテヤマネコ?」
「そうです。イリオモテヤマネコです。」
「写真ならあるけど、実物は見たことないなあ。」
「ぼく、今から西表島へ行くんです。」
「へーえ。直接イリオモテヤマネコを見に行くなんて、すごいじゃないか。」

「おじさん、言わせてもらおうけど、ヤマネコを「見」に行くんじゃないって、「会い」に行くんです。「見る」なんて、ヤマネコに失礼ですよ。」
少年は、真剣な表情で、口をどがらせた。

「まったくその通りだ。「見る」ではなくて「会う」でなくてはならない。」
ぼくは、少年の発想をおもしろく思いつ、その場で、すぐに「西表島に決めてしまった。」

すると間もなく西表島行きの観光船が入ってきたので、ぼくは、あわてて、切符を買って乗場に走った。

船内は意外に広く幾組かの家族連れでにぎわっていた。
ぼくは、甲板の後尾に立って、次第に離れて行く那覇港をぼんやりと眺めていた。

船尾スクリーナーから激しくはき出される白い泡沫を見つめていると、急に新たな旅情が湧いてきて、年が若いもなく胸が高鳴った。

「おじさん、西表島に行くんですか?」
先ほどの少年が近寄ってきて、声をかけた。
「そうだよ。おじさんも西表島に決めた。」
「おじさん、西表島に何しに行くんですか?」
「そりゃあ、決まってるさ。イリオモテヤマネコに会いに行くんだ。」
「会いにね。」
少年は満足そうに、にっと笑った。

「じゃあ、一緒ですね。「旅は道連れ」って言いますから、よろしくお願ひします。」
少年は、人なつこく笑って、ペコッと頭を下げた。

吉田海里(よしだ・かいり)。平成八年生まれの、中学三年生。
「ぼく、どこなめの出身です。」
「あの、中部空港セントレアのある常滑市?」
ぼくはびびりくりした。愛知県の「常滑」の原稿をぼくは現在も時々書いてるし、それにぼく自身が青春時代に憧れた何人かの少女たちが住んでいた、あるいはいまも暮らしている、ぼくの憧れの街でもあるのだ。

「そうか、海里くんは常滑の出身なのか?」
「おじさん、常滑を知ってるの?」
「もちろん。「あかい新聞」ってあるじゃない?」
「あるよ。ぼく「あかい新聞」に小

学生の時「動物」の作文が載ったよ。」
「それは、すごい!」
ぼくは、急に少年に親しみと愛着を感じた。

海里少年は、家庭の事情があつて、現在は、宮崎県のM養育院で生活をしている。そこで知り合った焼そば屋の「おばあちゃん」にいろいろ世話になってる。そして正月など泊まりがけで遊びに行くようになり、大勢の親せきの人たちとも親しくしてらうてる。

その大好きなおばあちゃんが、動物好きの海里のために、沖縄への旅行をプレゼントしてくれたのである。

この少年のできすぎたと思える話を聞いて、ぼくは、少し心配になつて宮崎の焼そば屋のおばあちゃんの方に一応、電話をかけてみた。すぐに元気のいい、声の大きなおばあちゃんが出た。

「はい。海里くんは、まじめな子なので、信用しています。安心しておられます。ですが、何分にも初めてのひとり旅です。何かとお世話になると思います。よろしくお願いします。」
というところで、ぼくもひとまず安心した。

沖縄県の西表島は、沖縄本島に次ぐ、琉球列島第二の島で、その九〇パーセントは国有地で、うっそうたる亜熱帯原生林におおわれている。村落には、石垣と防風目的の福木で囲まれた屋敷が多く、素焼の赤がわらを漆喰で固めた屋根が点在している。

島内のいたるところに真赤な花を咲かせているハイビスカスや気根を垂らしたガジュマルがいかにも亜熱帯の島という風景を見せている。
ぼくと少年は、村落のはずれにある「渡嘉」という民宿に泊まることにした。西表港から、少し距離はあつたが、島の様子を見物がてら、歩いて行くことにした。

幹線らしい道路は、ほぼ舗装されていて、離島という感じはない。それでも、道傍には世界でも類を見ないヤエヤマヤシやニッパンヤシが長い葉を垂らして高く群生し、その間をウンスンモタマやハブカズラが樹木にからみついて茂っている。
三十分ほど歩いた所に人だかりができていた。クルマが止まって、住民らしい人が何やら話し合つていらる。

「交通事故らしいですね!」
少年が道の群がりに駆け寄つた。
「こんな最果ての島にも交通事故があるんですね!」
だが、事故は、既に処理され、別のクルマ(救急車?)も立ち去つた後だった。

「ケガの方は、だいじょうぶだったのですか?」
海里が心配して赤ん坊を抱いた母親らしい人に聞いた。
「それが、亡くなつたんですよ。かわいそうに!」
その人は涙をこらえながら、いかにも悲しそうに目頭をおさえた。

「こんな道路にまで出てくるから、いけないんだよ!」字が読めないんだから、もつとヤマネコ同士で注意し合えないものかね。」
「ヤマネコ?」
海里とぼくは顔を合わせた。事の次第を聞くと、ヤマネコの交通事故死であつた。食物の獲物を追つて、

道路に跳び出し、てきたヤマネコがクルマにひかれたらしい。
いま、西表島で時々発生するヤマネコの「事故」には、現場検証が行なわれ、死亡した場合、遺体は丁寧に火葬場に運ばれ、翌日の地元新聞に死亡記事が載るといふ。西表島の人々のイリオモテヤマネコに対する愛情や配慮は、人間社会と全く同じといえる。

「ヤマネコに対する思いやりが、行き届いていますね。」
少年も、ひどく感動している。
この事故で、かなり時間が遅れて民宿に着いたのは正午近くだった。

海里は、養育院生活での習慣なのか、部屋に入ると、すぐ机に向かった。自己流のノートを見開きに、色マジックで、午前、午後、夜間の三段に区切り、天候、温度、雲の形、食事の献立、買い物などを書き込んだ。今ももう「道路でヤマネコが交通事故死」「民宿の前をへびが横切つた」等と書いてる。持つてきた本も『詳細・日本地理・沖縄編』『日本動物図鑑』『植物事典』『気象年鑑二〇一一』と徹底している。

海里の真剣な熱意にあおられて、ぼくは、早くヤマネコに会いたくなつた。すると、胸が高鳴つて、もう部屋でじつとしていられなくなつた。
「おじさん、ちよつとそこらを散歩してくるからね。」
「どこへ行くんですか?」
「ヤマネコに会いたくなつてね。イヌも歩けばヤマネコに当たるってこともあるしね。」
「だめですよ、おじさん。ヤマネコは夜行性で夕方から活動を開始するんですよ。それに、警戒心が強いから、昼間はめつたに姿を見せませんよ。」
少年の強い口調に、ぼくは、あきらめることにして、履き替えた靴を脱いだ。



ぼくが外出をやめたのを見届けると、少年は「動物図鑑」を改めてぼくに見せた。

イリオモテヤマネコ

食肉目ネコ科の哺乳類。学名 Felis iriomotensis。イエネコよりやや大型で、頭胴の長さ五〇センチ〜六〇センチ。尾長二三センチ〜二四センチ。体重三キロ〜五キロ。暗褐色の地色に縦列の黒斑がある。頭骨などに原始的な特徴が見られる。沖縄県西表島だけに生息。普段は単独で森林内で暮らし、樹洞や岩穴を休息場所とする。一九六五昭和四〇年に発見。特別天然記念物。

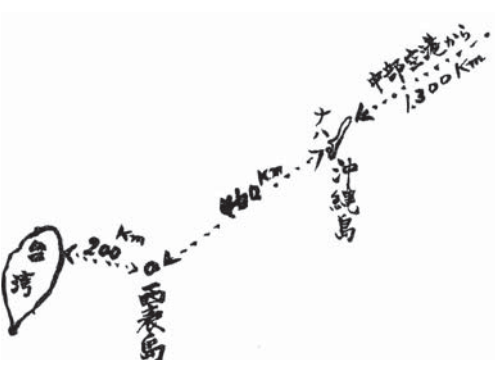
ヤマネコは、夕方から活動するといふから、まだ時間がある。自分の取材ノートを整理した後、二三通の手紙を書き、海ブドウをサカナにアワモリを飲んで、海里があら、出かけよう!」
「おじさん、お酒なんか飲んでちや、ダメですよ。そろそろヤマネコさまがお出ましになる時刻ですから、出かけましょう!」
ぼくは、また登山靴に履き替えるど、あわてて海里の後を追つた。

初めての西表島であるはずなのに、海里は地図を見ることもなく、どンドン先に進んでいく。(つづく)

●カット 牧 富也

《筆者紹介》

ほりお・こうへい。作家、「日本学術出版」代表。名古屋大学研究室修了。元愛知淑徳大学文学部教授。著書多数。現住所、名古屋南区元桜田町四一五五。

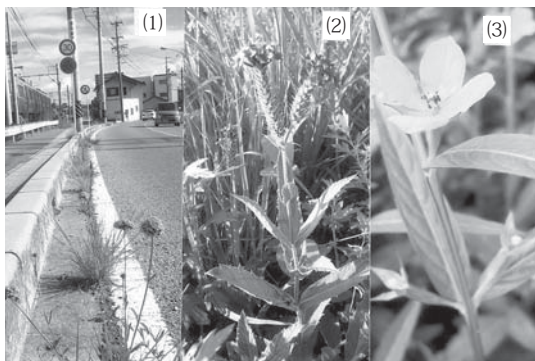


知多の動植物雑記(二七七)

原 穰

十月には寒露を迎え、涼しき最高かな。野に咲く花もそろそろ終りだが、夏の猛暑にもめげず道端に咲く花のたくましさに驚き。

(1)はヤナギハナガサで、南アメリカ原産の帰化植物。東海地方へは第二次世界大戦後に入ってきたとか。



たくましく生きる帰化植物

(2)はアレチハナガサ。これも南アメリカ原産の帰化植物。茎の先に、分岐した長さ二〜三センチの花穂をつけ、その先に淡紫色の花を五〜六個ほどつける。

事実、私が確認したのは武豊町富貴字鎮守の丘陵地の田んぼの縁と、武豊の堀川上流部の田んぼの片隅。雑草の中に黄色い花を見つけ、タガリシカなどと思って近づけば全く違ふ。花は黄色で四弁。葉は細長く先は尾状にたがる。ナニコレ?と図鑑で確認すれば、ヒレタゴボウだつて!

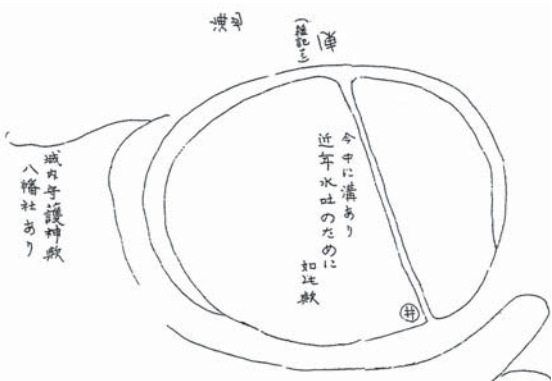
町の考古学

武豊町長尾城

(百六十八)

奥川 弘 成

遺跡



長尾城 絵図

およそ鎌倉時代に長尾の地に移り住んだと伝えられている岩田氏は、この棟札以外に、武雄神社の宝物に、永享九年(一四三七)の在銘のある御厨子に「根豆志荘東条 岩田景俊の名を残した

とわれまします。その後、享徳三年(一四五四)の醍醐寺文書に岩田氏が現れます。「根豆志荘 岩田入道請文 正文 享徳三 八 廿八

これは、根豆志荘の岩田源秋が子や親族とともに喜久寿殿の御殿として奉公することを誓約するもので、応仁の乱が起る十三年前のことです。

岩田氏が喜久寿殿とされる有力者に仕え長尾郷を治めていたように、岩堀三郎左衛門入道妙玄が隣ムラの楡原や垂水を治めていました。それは、永享四年

源秋子共并親類等、他人之被管成事、不可有候、御領中住人として可致奉公候、殊に喜久寿殿の御殿人として、不可存緩急候、子々孫々可為此分候、万一代末代背此旨者、堅可預御罪科候、為後証文状如件、享徳三年八月廿八日 岩田弾正入道 源秋(花押)

この一五世紀、応仁の乱以前は、一色氏が知多郡守護となつてたころです。岩堀氏が一色氏と同様に足利一門で本拠は三河であるのに、対し岩田氏は、在地の土豪として根をおろしていたようです。

一色氏が立ち退くと今川、織田、松平を背後として、大野の佐治や緒川の水野、

長尾郷を治めた岩田氏は、城を構えることになりました。その築造がいつであったかは、分かりませんが、近年、武雄神社に残されている古文書などを愛知県史編纂室が調査して、主と記した棟札が確認されました。

半島南部の戸田が勢力を強めていました。長尾郷を治めた岩田氏は、城を構えることになりました。その築造がいつであったかは、分かりませんが、近年、武雄神社に残されている古文書などを愛知県史編纂室が調査して、主と記した棟札が確認されました。

奉再建長尾天神武運長久祈 天文九年(一五四〇)庚子十一月尾州智多郡根豆志荘長尾郷城主岩田左京亮藤原光秋 大工青木

二輪車にリヤカー引かせ秋の暮人去りし急に広がる夏座敷裏庭の雑木に点る烏瓜夕風の心地よろしや赤蜻蛉御捻りの飛び交ふ芝居夏惜しむ故郷に想いをよせて盆の月秋の蚊にひそと耳元囁かれ喜べば鈴虫しきり鈴鳴らす鯊釣りに楽しき夕の膳新涼や重なるルックが闊歩する虫の声ひとりの夜となればこそ登校日蝉より高き子等の声特急の走り抜けるや八月尽

今生の命を惜しむ法師蟬亡きがらを土に還して夕月夜楕円形抱えるに良しこの西瓜結び目をほぐす指先秋の風寝ながら窓にさしこむ月の色茶器の街陶都常滑秋の色

奉再建長尾天神武運長久祈 天文九年(一五四〇)庚子十一月尾州智多郡根豆志荘長尾郷城主岩田左京亮藤原光秋 大工青木

若竹俳壇

作品募集 毎月十日までに集めて

二輪車にリヤカー引かせ秋の暮人去りし急に広がる夏座敷裏庭の雑木に点る烏瓜夕風の心地よろしや赤蜻蛉御捻りの飛び交ふ芝居夏惜しむ故郷に想いをよせて盆の月秋の蚊にひそと耳元囁かれ喜べば鈴虫しきり鈴鳴らす鯊釣りに楽しき夕の膳新涼や重なるルックが闊歩する虫の声ひとりの夜となればこそ登校日蝉より高き子等の声特急の走り抜けるや八月尽今生の命を惜しむ法師蟬亡きがらを土に還して夕月夜楕円形抱えるに良しこの西瓜結び目をほぐす指先秋の風寝ながら窓にさしこむ月の色茶器の街陶都常滑秋の色

河瀬四子 藤井文月 富田悦子 林京子 江端久恵 杉江夕工 小島光輝 村田政子 関里美 齊藤浩美 塚本千鶴 谷川と志江 加藤久子 杉江京衣子 荒川達雄 村井範子 竹内ユミ子 渡辺民子 山中博子 都築信子 柴山艶子 伊奈庄山 中村洋子

ちやほほをなをります。材料費一個百円。ハロウィングラスをつくる(二日) 三十日(日)午前時午後四時半 内容 ビールや酎酒牛乳のクッキーを焼く、シロップやチョコを塗ります。材料費、各一個百円。ちやほほをなをります。材料費、各一個百円。

ちやほほをなをります。材料費、各一個百円。ハロウィングラスをつくる(二日) 三十日(日)午前時午後四時半 内容 ビールや酎酒牛乳のクッキーを焼く、シロップやチョコを塗ります。材料費、各一個百円。

ちやほほをなをります。材料費、各一個百円。ハロウィングラスをつくる(二日) 三十日(日)午前時午後四時半 内容 ビールや酎酒牛乳のクッキーを焼く、シロップやチョコを塗ります。材料費、各一個百円。

ちやほほをなをります。材料費、各一個百円。ハロウィングラスをつくる(二日) 三十日(日)午前時午後四時半 内容 ビールや酎酒牛乳のクッキーを焼く、シロップやチョコを塗ります。材料費、各一個百円。

ちやほほをなをります。材料費、各一個百円。ハロウィングラスをつくる(二日) 三十日(日)午前時午後四時半 内容 ビールや酎酒牛乳のクッキーを焼く、シロップやチョコを塗ります。材料費、各一個百円。

ちやほほをなをります。材料費、各一個百円。ハロウィングラスをつくる(二日) 三十日(日)午前時午後四時半 内容 ビールや酎酒牛乳のクッキーを焼く、シロップやチョコを塗ります。材料費、各一個百円。

ちやほほをなをります。材料費、各一個百円。ハロウィングラスをつくる(二日) 三十日(日)午前時午後四時半 内容 ビールや酎酒牛乳のクッキーを焼く、シロップやチョコを塗ります。材料費、各一個百円。

ちやほほをなをります。材料費、各一個百円。ハロウィングラスをつくる(二日) 三十日(日)午前時午後四時半 内容 ビールや酎酒牛乳のクッキーを焼く、シロップやチョコを塗ります。材料費、各一個百円。

社会のトレンドをつかむ 日経新聞活用術 11月18日(金) 開場18:30開演19:00 雁宿ホール

セミナーへの申し込みはこちら 11月18日(金) 開場18:30開演19:00 雁宿ホール

セミナーへの申し込みはこちら 11月18日(金) 開場18:30開演19:00 雁宿ホール

セミナーへの申し込みはこちら 11月18日(金) 開場18:30開演19:00 雁宿ホール

セミナーへの申し込みはこちら 11月18日(金) 開場18:30開演19:00 雁宿ホール

セミナーへの申し込みはこちら 11月18日(金) 開場18:30開演19:00 雁宿ホール

セミナーへの申し込みはこちら 11月18日(金) 開場18:30開演19:00 雁宿ホール

セミナーへの申し込みはこちら 11月18日(金) 開場18:30開演19:00 雁宿ホール

セミナーへの申し込みはこちら 11月18日(金) 開場18:30開演19:00 雁宿ホール

セミナーへの申し込みはこちら 11月18日(金) 開場18:30開演19:00 雁宿ホール

わが家のニューフェイス



藤井 露結 (11ヶ月) 武豊町楠

兄	ち	や	ん	と	三	歳	の	お	姉	ち	や	ん	が	い	い
る	ん	だ	け	ど	、	好	い	つ	も	一	緒	に	遊	ん	だ
く	れ	る	か	ら	大	好	き	な	ん	だ	。	ま	だ	、	
上	手	に	歩	け	な	い	か	ら	、	お	外	で	一	緒	
に	遊	べ	な	い	け	ど	、	お	外	で	も	い	っ	ぱ	
う	に	な	っ	た	ら	、	お	上	手	に	歩	け	る	よ	
遊	ぼ	う	ね	!!	早	く	歩	け	る	よ	う	に	が	ん	
ば	ら	か	ら	待	っ	て	ね								



僕	の	名	前	は	、	藤	井	露	結	で	す	。	も	う	す	ぐ	
一	歳	の	誕	生	日	な	ん	だ	。	お	姉	ち	や	ん	が	い	い
露	結	は	七	歳	の	お	姉	ち	や	ん	が	い	い				
僕	に	は	、	七	歳	の	お	姉	ち	や	ん	が	い	い			

藤井尚美

愛とMy Family



杉浦 莊祐 (2歳6ヶ月) 常滑市かじま台

す	と	出	掛	ける	の	を	心	持	ち	に	し	て	い	ま	す			
高	い	所	へ	も	す	い	い	す	い	澄	り	は	松	原	公	園		
を	走	り	回	っ	て	い	ま	す	。	毎	日	色	々	な	虫	や		
植	物	に	も	出	会	え	、	毎	日	色	々	な	虫	や				
を	し	て	い	ま	す	。	こ	れ	か	ら	も	た	く	さ				
ん	遊	ん	で	大	き	く	な	っ	て	ね	。							



杉浦早希子

あっちべたこっちべたフェスタ
TOKONAME WELCOME FESTA 2011

8年目を迎える今年のフェスタは、3日間の特別日程で開催します。
2011年 10月8日(土)～10日(祝)
 10:00～ (荒天の場合は中止)
 主催/常滑観光推進協議会・あっちべたこっちべたフェスタ実行委員会
 後援/愛知県・常滑市・愛知県観光協会・知多半島観光協会
 中日新聞社・中部経済新聞社
 協賛/半田市観光協会・武豊町観光協会・とこなめ屋台倶楽部
 ■お問い合わせ/観光プラザ 0569-34-8888

会場：常滑やきもの散歩道前街道沿い～常滑駅前～りんくうビーチ



おもしろ布の楽しい装い展
 中根由美子 染色作品展

2011年10月1日(土)～9日(日) 10時～5時(水曜定休)

柿渋染のベスト・ジャケット・ウールのパンツ
 シルクオーガンジーのスカートなど秋冬の服展です。

陶芸サロン
陶美園

〒479-0838
 常滑市鯉江本町6丁目36番地
 ☎(0569)35-2320